

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 2月 5日

事業所名 白川町こども発達支援教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		個々の指導に合わせて使用している。	その都度、活動の内容によって話し合いながら部屋のスペースを使用している。
	2 職員の配置数は適切である	5		代替え職員も協力してもらっている。(職員が休みの時)	専属職員の確保ができるといいと思う。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	部屋に入る前のフロアが8角形になっており、戸が閉まっているとどこか、どこかの部屋なんか分からなくなるため、プレートをつけたしている(動物)	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		トイレに段差がある。使用する時は見守るようにしている。	女子トイレの便器を幼児用に取り換えてもらうことが出来た。使用しやすくなったと思う。(未満児用も1ヶ所ある)
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		計画や目標を元に職員間で共通理解をしている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		評価表内容をもとに保護者の意向や業務改善に努めています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		昨年度よりHPでの公表ができるようになった。保護者の方がにも知らせていくようにする。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		年1回の運営委員会の場で意見交流などを行っている	運営委員会の中で出た意見などを聞き、改善策を検討したりしている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		関連する研修にはなるべく職員で参加を共通理解に努めている。	研修がzoomから、以前の集合型の研修に変わりつつあるため全員揃っての参加は難しいが、参加した職員からの復命のおいて報告を受けたりしている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		子どもの発達状況に合わせて支援内容が設定されている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		個々に合った支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		担当者間で話し合い、立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		固定化しないよう話し合いをおこなっている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		日頃から職員間では、情報共有をしており指導前には、必ず打ち合わせをしている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		指導終了時には、指導内容の振り返りを行っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		活動記録は出来るだけ、その日のうちに記載していくようにしている。問題事などは早めに対処するようにしている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		定期的なモニタリングを行っている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		会議には担当職員も一緒に参加したし情報共有を行っている。	相談員さんの時間調整がなかなか難しいところがある。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		情報のやり取りを密に行い、連携した支援を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		5		対象の子がいない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5		医療機関との連携体制をとる必要がある場合はとるようにする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		教室での様子や保育園での様子を話し合い情報共有や支援の方向性を共有している。	関係機関との連携や情報共有ができています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		教室での様子や学校での様子を話し合い情報共有や支援の方向性を共有している。特別支援学校などへは、教育委員会を通じて情報共有など行ってもらっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		他の市町村や郡内の先生方と連携を取りながら情報共有している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5		特に交流は行っていないが、指導の中で他園や学校の仲間と関わる時間を作っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2		各自治会での活動に参加は保護者をお願いしている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			指導の前後には、保護者と話す時間を設けている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		個々の発達においては、親さんにも指導に参加していただき、子どもの様子や姿、関わり方を学んでもらっている。(ペアトレのみは行っていない)	親子支援ができるようなことを検討していきたいと思う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			入級時に説明をし質問にも答えたりするようにしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			いつでも相談しやすい環境に心掛けている。内容によっては行政や保健センター、保育園につなぐこともある。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5			コロナ前のようなまでのようには開催できないですが、感染予防対策をしながら、親の会の行事などを行っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			相談内容によっては、できる限り速やかな対応を行っている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		5		行事などのお知らせは早めに文章で発信したりしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			職員間でも個人情報の取り扱いを徹底している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			分かりやすい方法で情報伝達を行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1		地域住民を招待する活動は行っていない。個々に各自治会内で地域の方々とのふれあいを行っていたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			訓練の開催日や時間と重なる子がいない為、訓練等の参加ができていないのが現状である。保護者の方には、緊急時の対応については伝えておく必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		定期的に避難訓練や消火訓練を行っている。職員も参加できている。	子どもの利用時間の時になかなか訓練をやらせてない。昨年から年に1回だけ指導に合わせた時間で計画された。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		保護者から聞きとるようにしている。服用の際は保護者をお願いしようと思う。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5		食事指導は行っていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		行政関係者と共に圏域である研修会等に参加させていただいたりしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1	対象児がいない。現在身体拘束を行う子どもはいない。そのような状況になった場合は説明や記載をしていくようにする。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。